

令和4年度 地域に飛び出せ大学生！

おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する制度です。

令和4年度は8大学13研究室が取り組みました。

目次

- 1 津山市上加茂地域(知和地区) × 新見公立大学(高杉研究室)
- 2 笠岡市六島 × 美作大学(有岡研究室)
- 3 新見市下熊谷 × 岡山理科大学(動物保全学研究室)
- 4 備前市神根本地区 × 新見公立大学(松田研究室)
- 5 真庭市二川地域 × 岡山理科大学(黒田研究室・大藪研究室)
- 6 矢掛町江良集落 × 岡山大学(地域総合研究センター)
- 7 西粟倉村大茅地区 × 岡山理科大学(小田研究室)
- 8 久米南町下粕地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)
- 9 久米南町上弓削地区 × 岡山大学(資源管理学ユニット)
- 10 美咲町南和気地区 × 環太平洋大学(早田剛ゼミ)
- 11 美咲町大埴和 × 岡山県立大学(関根研究室)
- 12 吉備中央町豊野地区 × 岡山県立大学(穂苅研究室)
- 13 吉備中央町旧高富小学校区 × 就実大学(薬学療法設計学研究室)

1. 津山市上加茂地域(知和地区) × 新見公立大学(高杉研究室)

趣旨・目的

「アクションリサーチ」として実践と研究を融合させた取組を行い、上加茂地区の地域活性化につながる取組を企画・実施・評価することで、学生の実践研究能力を高めることを目的とする。学生は上加茂地区での地域活動に携わることで地域アセスメント能力を高め、取組を実施・評価することで調査能力を高める一方、上加茂地区は、学生の第三者的視点から既存の地域活動を改良し、新しい地域活動の開発を目指す。

主な取組

住民との交流

稲刈り体験、鳥獣害対策ネット組み立て、晩御飯作りなどを通じて地域住民と交流した。また、地域ニーズを把握するためのワークショップを実施した。

災害時要援護者支援ワークショップの開催

避難時要支援者の支援方法を考えるための災害図上訓練(DIG)を行い、防災と避難支援に対する意識向上を図った。

ちわDIYプロジェクト

観光客向け、継続して行えるイベント、知和のシンボルを作る活動として、令和4年の干支であるウサギのベンチを作成した。

アンケート調査

今年度の活動に対する住民の意見や感想を集めるとともに、防災や避難支援に関する意識の変化や活動への改善点、学生への要望などを調査した。



成果

災害図上訓練(DIG)を行うことで、防災について自分ごととして捉えるようになることや、要支援者を改めて把握でき、避難支援の必要性に対する意識の向上に寄与した。

ちわDIYプロジェクトでは、ワークショップを通じて、コミュニティデザインの方法を用いて住民同士の交流の場や、知和のシンボルとなるものを作ることができた。更にこの取り組みは干支にまつわるベンチを毎年作り続けることで継続的な地域活性化を図ることができること等のメリットをもたらした。

また、地域ニーズを把握するワークショップやアンケートを実践することで、地域ニーズと学生のやりたいこととのマッチングを行うことができた。

2. 笠岡市六島 × 美作大学(有岡研究室)

趣旨・目的

これまでの調査活動により、島の子ども達は年々減少し、笠岡諸島内での、交流があまりない状態であることが分かった。また、島の住民も高齢化し減少の一途をたどっている。

そこで、子どもと親が一箇所に集まって交流することにより、子育てについて話をし、島の課題について考える場を提供する。そして、学生が調査結果を地域に返すことによりその解決に寄与する。

主な取組

住民への聞き取り調査・アンケート調査

地域住民に対して島の現状や課題、魅力などについて対面での聞き取りやアンケートにより調査した。(全数調査)

知夫里島視察

島根県の知夫里島を視察し、島の人口、交通、教育の状況や、知夫里島で導入している島留学制度について調査した。その上で、六島との比較検討を行い、六島の活性化に向け、関係人口の拡大のための島留学制度の導入を提案した。

絶景カフェの企画・運営

六島灯台100周年行事に合わせ、空き家を活用し、カフェを営業した。島外から来た方、島民、学生が交流する場となった。

クリスマス会

島内外の親子の交流機会創出のため、島民とともにクリスマス会を実施した。

成果

笠岡諸島内の交流を活発にするため、灯台100周年に合わせ、空き家を活用したカフェの営業や、他地域の親子との交流を目的とした行事を企画実施し、関係人口の拡大に貢献した。

また、他地域の事例調査や聞き取り・アンケート調査を通じて島の課題を抽出し、島留学制度を提案するとともに、SNSを活用した情報発信を行い、課題解決に向けて支援した。



3. 新見市下熊谷 × 岡山理科大学 (動物保全学研究室)

趣旨・目的

大学生が地域住民の方々と一緒に獣害対策を考え、協力してこれを実行する。これによって地域住民と大学生が互いに刺激を受けて元気になるとともに、地域の活性化や関係人口の増加、年配者と若者の交流を促進し、最終的には、過疎化等によって多くの中山間地域で生じている獣害問題を解決するための、地域と学生が主体となって獣害対策を実行するモデル地域となることを目指す。

主な取組

アンケート・聞き取り調査

地域における獣害の実態や獣害についての住民意識の把握を具体的な住民の声として対面で聞き取った。

自動撮影カメラの設置

どの種類の野生動物がどの場所に現れるのかをセンサーカメラを設置することで具体的に把握し、耕作面積や餌資源量との相関関係について分析した。

2度の新見探訪イベントの開催

岡山理科大学内で学生の参加者の募集を行い、電車やバスを乗り継いで下熊谷地域を訪れ、2泊3日あるいは1泊2日で集落内を散策する体験イベントを開催した。

成果報告会の実施

獣害の存在が住民間あるいは住民と外部のコミュニケーションツールになりうることを下熊谷地域をリードするメンバー（下熊谷はぐくむ会）らに報告した。

成果

獣害を減らすためには、従来の直接的な害獣駆除だけではなく、地域内外のコミュニケーションを活発化させ、関係人口を増加させることで、住民が獣害から受けるストレスを軽減させる方法や、人の往来そのものが増えることで野生動物の集落への接近を防ぐ方法等も考えられるアイデアを示した。また、各人が耕作している農作物の情報共有を行うことで集落全体で獣害を防ぐという意識の共有が必要であることも提案した。これらの成果を活動報告書ならびに1枚チラシというかたちで地域の全戸に配布を行い、本活動の終了後にも住民を主体とした活動が継続するような波及効果を目指した。



4. 備前市神根本地区 × 新見公立大学(松田研究室)

趣旨・目的

「地域が抱える高齢化に付随する課題と現在の取り組み例の提示」そして「神根本地区の現状分析と強みの可視化」最後に「神根本地区の生活課題に応じた世代を超えた交流の在り方の提案と実施」を行う。

主な取組

他県の取り組み例の発表

神根本地区の活動の参考とするため、他県で人口減少や過疎化といった課題がある地域の取り組みを発表した。また、発表や神根本の強み、今後の活動についてアンケートを行った。

資源マップ(秋)の作製

アンケートによって抽出された神根本地区の強みを落とし込んだマップを、住民の意見を反映させながら改良させ、作成した。

地域防災の啓発活動

神根本地区では、災害発生時に避難所ではなく、在宅避難の形をとることが多いことから、在宅避難のカギになる防災備品について参加者に向け啓発活動を行った。

健康づくり

地域の健康づくりをテーマに、100歳体操やポッチャを行い、軽い運動を行いながら住民と交流を行った。



成果

神根本地区を知らない外部の人間が地区に入り、歴史や行事、生活のエピソードを聴くというコミュニケーションをとること、実際に資源マップを作製することで、普段生活している方にとっては当たり前の物事が、実は地域の強みや良さであることに気づいてもらえた機会となった。

また、健康づくりの一環で行ったポッチャは、運動により健康に寄与するだけでなく、住民同士が顔を合わせる機会をつくり、神根本地区に移住してきた方も顔を出しやすい企画であった。

5. 真庭市二川地域

× 岡山理科大学(黒田研究室・大藪研究室)

趣旨・目的

二川みらいづくりセンターを利用した地域活性化と地域住民との交流をテーマに、(1)「ふるいち二川マンガ館を核とした地域活性化のための提案」、(2)「二川みらいづくりセンターを利用した児童・生徒への新しい学びの場の提供」を研究目的とし、それを実現するための仕組みと方策を提案する。

主な取組

「マンガ館にコモリ隊」

子供が「マンガに飽きてしまう」、「親が満足にマンガを楽しめない、くつろげない」という課題に対して、子供がマンガを読んで答えるクイズをビンゴ形式でおこなうイベントを開催した。また、クイズの正解数に応じた景品を準備することで、子供を飽きさせない工夫もおこなった。

「体の細胞について漫画で学ぼう」

小・中学校で交流の場が少ない、学びの場が少ないという課題に対して、マンガ「はたらく細胞」を使って体に起きる身近なことを学ぶイベント(クイズ・ストラックアウト・かるた)を開催した。

「プログラミングを学ぼう」

小学校で教育の始まるコンピュータプログラミングを体験してもらい、面白さを知ってもらうためのイベントを開催した。

インタビュー調査

上記のイベントの際に、インタビューを実施し、実施内容に関する評価と検証、そして、改善点等の洗い出しを行った。また、イベントは通常の運営でも実施できるものを念頭に内容を企画した。

成果

イベントを開催することで、延べ100名の参加者を呼ぶこむことができた。マンガ館にコモリ隊では、ファミリー層をターゲットとしてクイズとビンゴを組み合わせた体験型イベントを実施し、マンガを読む以外の新たなコンテンツを提供することができ、マンガ以外で集客ができる可能性を示すことができた。



6. 矢掛町江良集落 × 岡山大学（地域総合研究センター）

趣旨・目的

矢掛町江良集落では、少子高齢化が進み、地域活動の担い手も減っている。その中で、若者が参画する機会を増やし、地域活動を円滑に続けることを目的とする。また、留学生が、矢掛町の子ども達と交流し、グローバルな体験に提供する。学生たちは、矢掛町中心市街地のまちづくりと元気集落のまちづくりを循環させながら新しい観光資源の発掘とPRに力を入れる。

主な取組

交流まちづくりの推進

梅収穫、稲刈り・田植えなどに学生が参加し、新しい特産品開発のアイデアを提供した。また、岡山駅前商店街の土曜夜市に集落のイモや柚子を使った商品を販売し、都市と農村の交流を活性化させた。田舎交流のポスター「そうだ！矢掛に行こう！」を作成し、PRを行った。

滞在型交流まちづくり開発

神社で発見された御神輿の活用を学生たちと集落のみなさんが検討した。見つかった経緯をヒアリングし、活用方法を集落へ提案した。

留学生による集落分析

留学生の視点から集落の魅力进行分析する。メディアを活用し、田舎のまちづくりを発信した。



成果

・交流まちづくりの推進

(1) 閉鎖的なムラの雰囲気明るく、オープンになる。(2) 学生が歩いていたことが話題となり、集落の中で積極的に声をかけあうようになった。(3) 海外のニュースが身近になり、その国が好きになった。ニュースと留学生の話の双方に関心が持てるようになった。

・留学生による集落分析

コロナ禍により、留学生の参加が制限されてきた。留学生は、イベント体験を発展させ、日常生活の体験に関心がある。留学生は、日本の地域活性化は、地方の伝統行事を維持させながら、生活を楽しくしていくことだと分析した。

7. 西粟倉村大茅地区 × 岡山理科大学（小田研究室）

趣旨・目的

① 棚田の防除、ドローンの活用 ② 小水力発電の効率向上 ③ 鳥獣害対策 ④ 大茅区有文章の解説という大茅地区の課題に対して、情報工学を中心とした技術を寄与し、課題解決の方向性、具体策の提案に繋げる。

主な取組

大茅区有文書の解説サイト (寄ってたかって大茅区有文書) の開発

トップページの作成、ユーザログイン機能、管理者ユーザの文書投稿機能、ユーザの解説機能の4つの機能をもつHPを開発した。

小水力発電機の除塵器の改良

水路の分岐点に「からくり」を用いて蓄積した枝や落ち葉を除去する無電力の除塵機を設置し、維持管理コストの削減と発電量を向上させる方法を提案した。

鳥獣害対策システムの検討

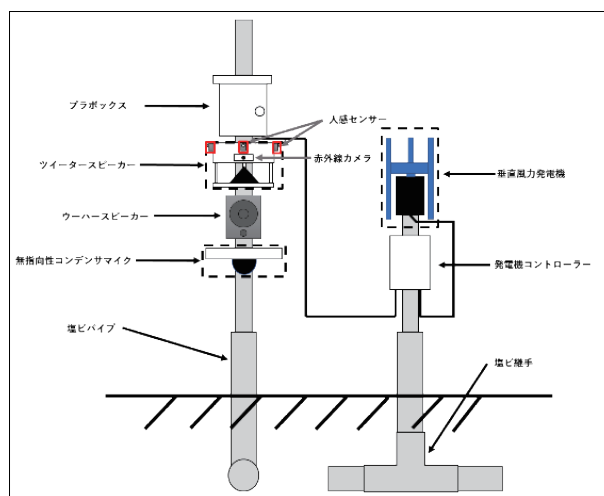
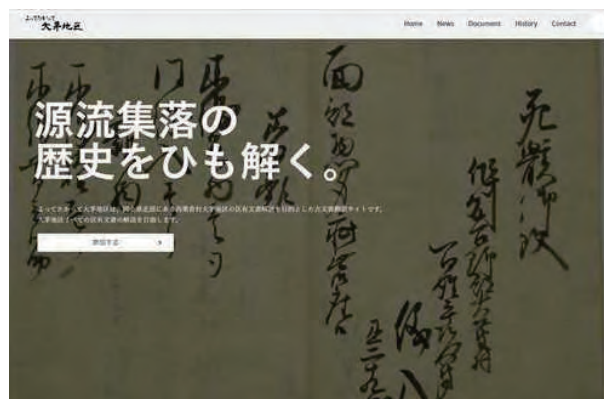
高音用と低音用の二種類のスピーカーを用いている。支柱には、塩ビパイプを使用し、低価格かつ転倒する可能性が少ない構造の鹿忌避装置や、融雪剤を用いた、鹿被害対策システムを提案した。

農薬散布ドローンの検討

大茅地区の複雑な地形に対して、AIで農薬散布の経路を導出するとともに、棚田の複雑な地形で農薬散布が可能なドローンについて検討した。

成果

研究室のシーズである、AI技術、ドローンなどの智能ロボット技術、音響制御技術、センサネットワーク技術、ウェブ工学技術など、情報工学を中心とした視点から、様々な手法を提案し、地域課題解決の一助となった。特に大茅区有文書の解説サイトの開発は、後世に先祖の人々の様子を伝えることができる仕組みづくりができた。



8. 久米南町下粕地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)

趣旨・目的

国際的な関係人口獲得のため久米南町下粕地区の外国人留学生との交流と多言語での情報発信を行う。また、地理・特産品を活かした新たなビジネスを検討する。

主な取組

地域住民との交流

農業体験や宿泊体験を通じて、下粕地区の住民と交流を深めた。また、久米南町中学校の総合的な学習で、情報発信について講義をした。

新商品の開発

下粕地区で収穫された小豆を使い、オーガニックぜんざいを開発し、道の駅くめなんにて販売も行った。販売に伴い、新商品にかかわるチラシやポスター、POPも併せて作成した。

情報発信

下粕地区、久米南町をPRする多言語（日本語、英語、中国語、ベトナム語）動画を制作し、SNSやYouTubeへ投稿した。



成果

SNSや動画投稿サイト等、様々な媒体を活用して多言語での情報発信・PR活動を行うことで国際的な関係人口の獲得、久米南町の商材を使用した新商品を開発することで、主に県内での関係人口獲得に寄与した。

9. 久米南町上弓削地区

× 岡山大学(資源管理学ユニット)

趣旨・目的

過疎・高齢化が進行する対象地域において、外部人材である大学生が地域との交流に参加することによるメリット・デメリットを客観的に整理、その効果・費用の分析を行う。また、その結果に基づいて本事業の様な外部と地域との交流における、外部人材の活用方策を検討する。

主な取組

農作業・地域資源維持活動への参加

地域内で行われている地域資源維持活動や農作業に実際に参加し、外部人材である大学生の役割を実感した。

活動に参加している地域住民との会話の中で「地域を(地区外の人に)知ってもらいたい」との意見が多くみられた。



上弓削産ゆずを利用したワークショップ、久米南町紹介ブース

岡山大学農学部で実施されている収穫祭において(2022年11月19・20日)、上弓削地区内で栽培されているゆずを利用したワークショップを開催した。また、久米南町を紹介するポスターを作成し、PR活動を実施した。



久米南町上弓削地区紹介のぼりデザインの作成

当地域では上弓削ふれあいクラブが中心となって、多くの活動が行われている。その活動を、久米南町の他地域の人にも周知するためのぼりのデザインを作成した。

成果

令和3年度に引き続き、久米南町上弓削集落にて交流事業を実施する事により、地域と研究室の結びつきが強化された。また、地域外で大学生自身が上弓削の活動のPRを行うことで、より多くの人に伝える事ができ、「地域に学生自身が出向いての活動」以外の重要性を認識できた。また、のぼりに用いたイラストなどは大学生ならではのアイデアに富んでおり、外部人材活用の可能性を示すことができた。



10. 美咲町南和気区 × 環太平洋大学(早田剛ゼミ)

趣旨・目的

南和気地区の課題は、地域の良さの認知度が低いことである。本来は、地元住民によって自ら地域の良さを発信できることが集客に大きく影響すると考えられる。そこで2022年度における調査・研究の目的は、大学生と関わるスポーツ(健康づくり運動)を通じて、南和気地域の魅力探求及び発信とする。

主な取組

集落地域における交流に関する調査

2021年度に引き続き、2022年度もSNSの使用状況がコロナウイルスの影響によってSNSが地域活性化に必要なツールになり得るのかを調査した。アンケートは120件の回収し、集計を行った。

外部指導者導入に関する意識調査

中学生が外部指導員についてどう考えているのか調査を行い、学生目線で今後の部活動の在り方を考察し、過疎地域における部活動のあり方について検討した。対象は、岡山県美咲町立T中学校の生徒98名より回答を得た。

地域の魅力探索と憩いの場への参加

ゼミ生達と南和気荘を利用した米粉パン作り体験や憩いの場での健康教室に参加し、地域の方々との交流を行い、ゼミのInstagramで発信した。



成果

SNS自体を知らない、需要がないという回答もあったため、SNSを知っている人が知らない人に教えていくことが重要と考えられた。SNSを利用するにはSNSの使い方などを教えることから始める必要があると考察した。

過疎地域の中学生における部活動への意識を調査した結果、外部顧問を過疎地域の中学校に派遣に賛成が8割であり、外部指導者の可能性を示唆した。

11. 美咲町大枳和地区 × 岡山県立大学(関根研究室)

趣旨・目的

美咲町およびその関連団体と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた具体的な手法の検討・実践を目的とする。また、大学生が主体的に課題解決・地域活性化の企画立案を行い、中山間地域での交流体験を通じて、大学生をはじめとする次世代の若者が岡山の見どころを知り、学び、発信するというドメスティックインバウンド教育の一環とする。

主な取組

現状把握・課題分析

地元の方やNPO団体とワークショップを開くなど、研究対象地域の現状把握・課題分析を行った。

SNS広報

現地で取材した画像、動画を編集し、Instagramで広報した。また、10月10日(月祝)に開催された美咲町境祭りに参加した様子を大学HPにも掲載した。

地域振興菓子作成

美咲町大枳和の棚田を模した地域振興に資する和菓子(琥珀糖)とジオラマ風菓子を作成した。

また、和菓子のオリジナル包装パッケージを制作し、10月10日(月祝)に開催された美咲町境祭りにて、当日参加の子供に配布した。



成果

過疎高齢化や人口減少による地域の担い手不足や棚田や紅そばといった美咲町の魅力が知られていないことを把握し、若者ならではの視点から、SNSでの発信やそば打ち体験や棚田の見学を含む観光コースの作成、美咲町の名物となりうるこはく糖を使った地域活性化案等を地域に提案をし、地域の課題解決への一助となった。

12. 吉備中央町豊野地区 × 岡山県立大学(穂苅研究室)

趣旨・目的

人口減少社会において空き家対策は喫緊の課題であるが、地域社会から放擲される空き家の中には、かつて地域の発展に寄与してきたにもかかわらず、文化財としての価値が十分ではないと見なされるなどして法律上の保存対象とならなかった建物も多く存在している。

本研究では、地域住民と大学生との協働で、1) こうした空き家に地域遺産としての価値を見出すこと、2) その価値共有と活用案の検討を起点として、地域コミュニティのあり方の見直しを図ることを目的とする。

主な取組

空き家の掃除・片付け

調査対象の空き家は、元々大庄屋であった建物で将来的に地域コミュニティの拠点となるよう、空き家となって約20年の母屋や酒蔵の清掃を行いながら地域の方と交流をした。

オーラルヒストリー調査

豊野地区および元大庄屋の歴史を把握するため、地域住民に対して聞き取り調査を実施した。また、豊野地区の白地図に大庄屋を中心とするかつての豊野地区の生業や暮らしを書き込むワークショップを開催した。

地域の歴史の冊子作成

聞き取り調査やワークショップの情報を冊子にまとめ、成果報告会で配布した。



成果

豊野地区の歴史を地域の方に聞き取り調査するなかで、地域の方も改めて豊野地区について振り返り、考えるきっかけとなり、地域への愛着を醸成する機会となった。

いまに至る豊野地区をつくってきた人びとの生業や暮らしをまとめた冊子を作成することで、大庄屋をめぐる豊野地区の歴史を過去 - 現在を連続した物語りとして可視化することができ、後世にも伝承できるようになった。

13. 吉備中央町旧高富小学校区 × 就実大学(薬学療法設計学研究室)

趣旨・目的

中山間部等における医療過疎地域での薬剤師に求められる役割を明らかにすることを目的に、地域住民の交流会等において「健康」をテーマとした大学生考案のイベントを定期的実施し、当該地域における薬剤師としての地域医療へのかかわり方について検討を行う。

主な取組

学生考案イベントの実施

ハンドケア体験会、フレイルチェックの実施、お薬の飲み方講習会等、計6種類のイベントを実施し、学生と住民が交流をしながら健康づくりを行った。

Instagramの開設

総合福祉センター内で週一回行われている「ももカフェ」のInstagramを開設し、交流会の様子を情報発信した。

アンケート調査

薬剤師のイメージについて、ももカフェ参加者に学生が一人ずつ聞き取り調査を実施した。



成果

大学生の視点やアイデアによってイベントを企画・開催したことで、地域イベントのマンネリ化という課題を解決しながら、住民の健康づくりに寄与した。

アンケート調査から、住民が薬剤師の職務内容について「お薬の説明」以外のイメージをほとんど持っていないことが判明し、薬局が存在しない地域における薬剤師職能の周知の必要性が明らかとなった。